



研究者名※	須沢 栞 SUZAWA Shiori	学位※	博士(工学)
所属※	家政学部 住居学科	職名※	助教
連絡先	suzawas@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/suzawas		
研究分野※	都市計画・建築計画		
研究キーワード※	計画論、居住支援、遠隔地避難、仮住まい		
共同研究・競争的資金等の研究課題	・東日本大震災による被災地の生活支援活動を通して「自学自動」の実践力を育成する(日本女子大学特別重点化資金・共同研究者、2021年～) ・大規模災害後の避難先定住プロセスに関する研究 環境移行を考慮した復興計画に向けて(科学研究費・特別研究員奨励費・研究代表者、2019～2021年) ・大規模災害後の避難先居住と定住先の居住地・住まいの選択の関係に関する研究(竹中育英会建築助成金・研究代表者、2018～2019年)		
社会貢献・産学官連携活動等	・豊島区居住支援協議会受託研究「空き家を活用した居住支援」(2021年～) ・NPO法人つながりデザインセンター賛助会員(2021年～)		
受賞歴	・復興デザイン会議 復興研究論文賞奨励賞(2020年) ・人間・環境学会大会 プレゼンテーション賞(2016年)		

研究領域	都市計画・建築計画	(SDGs)	
研究テーマ※	平時と災害時をつなぐ居住支援		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 近年、頻発する自然災害や感染症の拡大の影響により、生活再建の目処が立たないことや、住まいの喪失の危機といった居住の問題が社会的な課題となっているが、支援制度の複雑化や、個別の状況に応じた支援の必要性から、単に住宅を供給するだけでは居住の問題を解決できず、ソフト面の支援を組み合わせた居住支援の重要性が増している。平時および災害時の居住支援の先進事例を対象として、支援業務の内容や支援体制を明らかにすることで、平時と災害時の居住支援をつなげるための糸口を導き出すことを試みる。具体的な対象地域として、東日本大震災や熊本地震などの災害後の居住支援、東京都豊島区を対象とした平時の居住支援などが挙げられる。 【応用例、研究の展望】 平時・災害時を問わず、支援の現場では目の前の対応に追われるため、ノウハウが共有されにくいことが課題として挙げられる。本研究では、複数の支援団体への調査結果を基として、居住支援シートの雛形、ブレイクスルー事例集を作成することで、現場に還元できる知見を提供することを試みる。 【研究方法の特色】 支援団体や不動産事業者などへのインタビューによる定性的データと、アンケートや行政提供の定量的データを用いて、多角的に分析を行う点が特色である。また、複数の災害や地域を扱うことで、事例の相対的な位置付けを把握し、各事例の支援方策をパターン化することにより、他地域での展開を目指すところに、本研究の独自性・創造性がある。		
本研究関連特許・論文等	・須沢栞, 大月敏雄, 外柳万里, 新井信幸, 李鎔根, 井本佐保里, 遠隔地避難後の住まいの確保に関する課題の抽出－東日本大震災後の盛岡市を対象として－, 日本建築学会住宅系研究報告会論文集, 15巻, pp.57-66, 2020年		
共同研究・外部機関との連携への期待	・復興デザイン会議との連携 ・豊島区居住支援協議会との連携		